# キャリア教育を軸とした社会に開かれた教育課程の編成

倉島　陽介（学校経営コース）

## 1　はじめに

(1)　勤務校における学校課題

勤務校における学校課題は，次の２点であると近年教職員間で共通理解がなされている。

○学力向上・維持　　○不登校生徒の改善

この原因は，生徒の学ぶ意義の自覚のなさや自己肯定感の低さ，人間関係を構築していくためのコミュニケーション・スキルの乏しさなどにあると捉えている。

また，勤務校における校長の学校経営の重点には次の２点が挙げられている。

○教育課程の整理　　○生徒一人一人の将来に向けた自立

教員として，学校課題や学校経営の重点を自分事として掘り下げて考え，取り組むべき実践をデザインし，実行していくことが必要である。

(2)　課題意識

新学習指導要領や中央教育審議会の答申，新潟市教育ビジョンに目を通していく中で，上記の勤務校における学校課題を改善・克服するための手立てに必要な視点は，次の２点を挙げる。

○自己肯定感や自己有用感を高め，学ぶ意義を捉え，自己理解を深める側面をもったアプローチとなり得るもの。

○教育課程を整理・編成するための軸となり，そのために整合性・一貫性が確保されるもの。

文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育をデザインする（平成24年）」に，筆者の課題意識につながることが次のように示されている。

> キャリア教育を実践することで学習意欲が向上し，自己理解の深化や自己有用感の向上など様々な効果が期待できる。
>
> キャリア教育を効果的に展開するためには，学校の教育課程全体で推進し，地域と連携・協力を進める必要がある。

これより，研究テーマは，キャリア教育を軸とした社会に開かれた教育課程の編成とした。

## 2　キャリア教育，社会に開かれた教育課程とは

研究テーマの鍵となるキャリア教育と社会に開かれた教育課程を自身の中で明らかにすることで，勤務校の課題だけではなく，これからの学校に求められる教育課題の克服にもつながるものと考えた。

(1)　キャリア教育とは

平成23年１月31日の中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」に，キャリア教育の定義は次のように示されている。

> 一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育。

また，キャリア発達とは次のように示されている。

> 社会の中で自分の役割を果たしながら，自分らしい生き方を実現していく過程。

さらに，キャリア教育で育成する４つの基礎的・汎用的能力を次のように述べている。以下表にまとめる。

**表１　キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力**

| |
|---|
| ○人間関係形成・社会形成能力<br>多様な他者の考えや立場を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに，自分の置かれている状況を受け止め，役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し，今後の社会を積極的に形成することができる力である。 |
| ○自己理解・自己管理能力<br>自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について，社会との相互関係を保ちつつ，今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に，自らの思考や感情を律し，かつ，今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。 |
| ○課題対応能力<br>仕事をする上での様々な課題を発見・分析し，適切な計画を立ててその課題を処理し，解決することができる力である。 |
| ○キャリアプランニング能力<br>「働くこと」の意義を理解し，自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け，多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら，自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。 |

この内容から，キャリア教育とは職場体験活動などの特定の活動や進学指導などの移行に関わる指導・支援を指すものではなく，全教育活動を通して，子どもたちに社会的・職業的自立に向けて基盤となる能力や態度を育むものであると捉えた。

(2)　社会に開かれた教育課程とは

平成 28 年 12 月 21 日の中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」の中で，社会に開かれた教育課程の重点が次のように示されている。

| |
|---|
| ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ，よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち，教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。<br>②これからの社会を創り出していく子供たちが，社会や世界に向き合い関わり合い，自らの人生を切り拓ひらいていくために求められる資質・能力とは何かを，教育課程において明確化し育んでいくこと。<br>③教育課程の実施に当たって，地域の人的・物的資源を活用したり，放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし，学校教育を学校内に閉じずに，その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。 |

この内容から，社会に開かれた教育課程とは地域の人的・物的資源を活用したり，目指すところを社会と共有・連携しながら実現したりしていくものであると捉えた。

## 3　研究の内容と実践

令和２年度から新潟市内の全小中学校で実施されているキャリア・パスポートや勤務校で自校化を進めるキャリア・ノートを足掛かりに，キャリア教育を軸とした社会に開かれた教育課程を編成するために行った実践をまとめる。

勤務校では，キャリア・パスポートやキャリア・ノートをはじめとしたキャリア教育について職員に直接提示していく立場にない。そこで，研究推進委員会に参加し，その中で意見を出し，取組を推進する職員をサポートした。

(1)　キャリア・ノートの自校化

キャリア・ノートをどのように構成し，運用し，キャリア・パスポートにつなげていけばよいかを校内研究推進委員会に参加して提案や検討を行った。検討の中で出された意見や自身が調査活動を行った新潟市内の先進的に取り組む中学校の実践例から学んだ要素などをもとに，自校のキャリア・ノートの試案と活用方法を次の３点にしぼり，運用に向けた提案を行った。

①　既存の振り返りワークシートを改善

既存の振り返り活動やワークシートを活かし，キャリア・パスポートとのつながりや全教育課程をキャリア教育の視点で関連付けるために，以下の２点を改善した。

・活動前の目標設定を自分の役割と関連付けて目指す姿を生徒が記す。

・活動中に振り返りをしていき、活動後にどのような力が自分につき、今後どのような場面でその力を活用していきたいかを記す。

その結果，行事や学校生活における係活動，委員会などの自分の役割，教科等の学習の振り返りなどの中で，どのような力が自分につき，もっとこんな力が自分には必要であるなど，達成感や自己理解を深めている生徒の記述の様子が伺えた。

②　キャリア・ノートの形式

自校にはワークシートを掲示する習慣があり，それを保持しつつ時系列で振り返りのワークシートを整理し，キャリア・ノートとして保管でき，生徒が見たいときに見られるようにするためにまち付きのクリアケースの活用を提案した。

教室の後方にある掲示板にクリアケースを設置し，振り返りのワークシートを重ねて入れていく形式で運用された。担任教師が生徒の記述に対してコメントを記入する場面も見られたことから，この形式はキャリア・カウンセリングの要素も併せ持ち，生徒の自己肯定感を高める一助となり得る様子が伺えた。

③　キャリア・パスポートとの連動

キャリア・パスポートによる生徒の現状と目標設定を記す時間を年度始めに確保するとともに，生徒がこれまでの体験や学びから得られた経験を整理・統合し，これからの自分の在り方を見つめるために，キャリア・ノートでまとめた振り返りをもとに，キャリア・パスポートにまとめる時間を年度末に設定する。

(2)　キャリア教育年間指導計画の作成

今後，キャリア教育を軸とした教育課程を編成し実施していく上で欠かせないことは，全校体制で組織的に取り組むことである。キャリア教育を適切に行うためにもキャリア教育の全体計画と年間指導計画が必要となる。勤務校には，キャリア教育の全体計画はあるものの年間指導計画がない。そこで，現在行っている教育活動の中からキャリア教育に関係するものを洗い出し，育成する４つの基礎的・汎用的能力とのつながりを見渡せるよ

うにするために，キャリア教育の年間指導計画の試案を筆者が作成した。

(3)　目標や願いの共有

社会に開かれた教育課程を編成するためには，これから先の社会を切り拓く子どもたちに必要な資質・能力を明確化し，地域と共有し，連携して育成することが必要である。地域ぐるみで子どもたちに必要な資質・能力をもとに教育活動のねらいを共有して積極的に連携することで，地域の新たな教育資源の発掘や開発，体験活動の一層の充実が可能となり得る。勤務校では，職員や保護者，生徒の願いをもとに平成 30 年に改訂された教育目標「自主・他敬・自愛・創造」があり，地域とも共有が図られてきている。これを活用し，キャリア教育を通してどのような能力や態度を生徒に身に付けさせようとしているのかを全教職員及び地域と共有するために，教育目標とキャリア教育で育成する４つの基礎的・汎用的能力との関係性を職員研修で明らかにし，地域に情報発信するなどの必要性を示した。

(4)　進路指導の改善

勤務校における自身の役割は進路指導担当である。勤務校で従来行われていた高校進学に特化したような進路指導を改め，キャリアの概念を含めた生き方指導としての進路指導ができないものかと考え，３年生で総合的な学習の時間の一部を活用した実践を試みた。

生徒の自己理解・自己管理能力とキャリアプランニング能力を高めることをねらいとし，自分の現状を知るチェックシートと 50 年先までのライフプランを立てるワークシートをもとに今後の目標を設定する活動を行った。生徒自身の特徴を知り，伸ばしていくべきこと（力）に気付き，これからの人生設計を視野に入れた進路選択や目標を考えることの大切さに気付いた様子がワークシートの記述内容や教師の見取りから伺えた。

## ４　キャリア教育を軸とした社会に開かれた教育課程を編成するために必要な方策

勤務校における教育課程は教科領域，各種教育の中から特別活動，授業，総合的な学習の時間，道徳教育・健康教育を中核に据え，教育目標である自主・他敬・自愛・創造に迫るべく教育活動が整理・編成されている。

キャリア教育と中核となる教育活動を今まで以上に体系的・系統的な関連性をもたせ，社会と目標・目的を共有し，子どもたちに必要な資質・能力を育成するための教育課程のイメージを次の図１のように考えた。

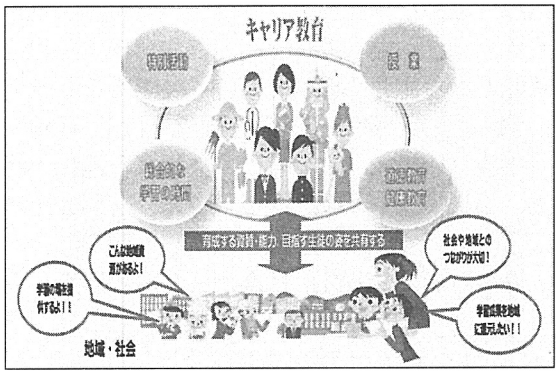


図１　目指す教育課程のデザイン

また，キャリア教育を軸とした社会に開かれた教育課程を編成していくために必要な方策は，次の３点である。

(1)　特別活動を要とした振り返りの充実

子どもたちは学び・体験の振り返りをキャリア・ノートとして蓄積する。それらを整理・統合することによって，教育課程全体を通した学びの往還が生まれ，自己のキャリア形成につなげる。

(2)　教科・領域の関連性や系統性をキャリア教育の視点から明確化

単元や題材で培う資質・能力や関係性がキャリア教育の視点から可視化でき，今まで行われてきた多くの実践を価値付けし，整理することにより教育課程に体系的・系統的な関連性が生まれる。

(3)　社会との目標・目的の共有

地域と連携して，人的・物的資源を効果的に活用し，目指す子どもの姿を共有し，これからの社会を創造していく子どもたちを育成するための教育課程を編成する。

## ５　成果と課題

(1)　生徒の現状

生徒の現状を見取るため，令和２年度に調査・実施した新潟市の学習生活意識調査の中から，研究に関連性のあると考えられるいくつかの調査項目を取り上げ，その結果を次の表２のようにまとめた。各調査項目における生徒の選択肢は，１：あてはまる，２：ややあてはまる，３：あまりあてはまらない，４：あてはまらないである。

表２　新潟市学習生活意識調査の結果

| (19)学習や生活のめあてをもって，毎日を過ごしています。 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 調査結果 | 1<br>29.5% | 2<br>42,4% | 3<br>23.4% | 4<br>4.8% |

| (21)自分にはよいところがあります。 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 調査結果 | 1<br>37.2% | 2<br>41.0% | 3<br>15.9% | 4<br>5.9% |
| (26)学校生活で，友達と力を合わせて学習したり，活動したりしています。 | | | | |
| 調査結果 | 1<br>64.6% | 2<br>28.8% | 3<br>5.4% | 4<br>1.1% |
| (60)自分たちで計画・活動したことの振り返りを行っています。 | | | | |
| 調査結果 | 1<br>62.7% | 2<br>26.9% | 3<br>8.3% | 4<br>2.1% |
| (61)振り返りで見つけた課題の改善策を考えたりしています。 | | | | |
| 調査結果 | 1<br>56.9% | 2<br>30.3% | 3<br>10.0% | 4<br>2.7% |

調査項目は，(26)が人間関係形成・社会形成能力，(21)が自己理解・自己管理能力，(60)及び(61)が課題対応能力，(19)がキャリアプランニング能力に対して関連性があると捉えた。各調査項目の生徒による肯定的回答の割合は，約70%～90%と高い数値を示している。

また，12月に行った教育目標振り返りアンケートから，実践に関わると考えられる質問項目における調査結果を下の表３に示す。質問項目における生徒の選択肢は，１：とてもよくあてはまる，２：あてはまる，３：あまりあてはまらない，４：まったくあてはまらないである。

**表３　教育目標振り返りアンケートの結果**

| (19)自分に足りない力は何か，もっとどんな力をつければよいかと考えている | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回答結果 | 1<br>50.2% | 2<br>42.3% | 3<br>7.5% | 4<br>0% |

令和２年度の取組により，どのような力が自分につき，どのような力が今後の自分には必要なのかを考えている生徒が多く存在していることがわかる。

(2)　成果

勤務校における特別活動を要とした振り返りの充実を図るためのキャリア・パスポートやキャリア・ノートの取組により，次の成果があったと考えられる。

①　生徒に関して

教科や特別活動における学びを振り返り，整理することを通して，自分の成長を実感したり，これからの目指す姿を設定したりすることにつながった。また，この気づきが自己肯定感や自己有用感の高まりにもつながった。

また，行事や授業，係活動などの学校生活全般に関わる教育活動を通して，人間関係形成・社会形成能力などのキャリア教育で育む４つの基礎的・汎用的能力の高まりが見られ，キャリア形成の素地をもつことができた。

②　職員に関して

キャリア教育を通して育成する基礎的・汎用的能力と教科領域との関連性を意識することや学校課題を克服するための視点から，キャリア教育の重要性を再認識することにつながった。

(3)　課題

振り返りシートの内容をさらに吟味し，特別活動だけではなく，毎時間後もしくは単元ごとの各教科における授業や道徳，総合的な学習の時間の振り返りの内容にも取り入れ，学校の教育活動全体すなわち教育課程を通じて連動した取組にしていく必要がある。また，キャリア・パスポートやキャリア・ノートをもとに，キャリア・カウンセリングの要素を取り入れた教育相談を計画的に行うなど自身の活動を振り返ったり，蓄積した情報をもとに生徒間，生徒・教師間で交流したりするような場面や機会を意図的に設定していく必要がある。

## ６　今後の展望

教職大学院での２年間で，キャリア教育を軸とした社会に開かれた教育課程を編成するための方策を考えてきた。実施できたことや試案段階で次年度以降の実施を試みることなど，まだまだ研究（実践）の途中段階である。実行できた方策をさらに推進していくとともに，今後，以下のような取組を推進していく。

(1)　組織的な取組

今後，キャリア教育を軸に教育課程を関連させ，子どもたちに必要な資質・能力を育むために，校内研修を実施して，目標や育む能力の具体を全教職員で共有する必要がある。また，教育活動をキャリア教育の視点からつなぎ，整理していく中で，全教職員の共通理解を生み出し，協働体制を実現していく。

(2)　家庭や地域社会との連携

地域や学校の特色を生かした教育課程を推進するために，今まで以上に家庭や地域住民，企業や様々な機関との連携体制を構築していく必要がある。学校の願いや想いを伝えるだけではなく，家庭や地域の人々がどのような願いをもっているのかを知り，子どもたちのために想いを共有し，手立てを構築していく場をつくっていく。